

後志教育

No.141

～主な内容～

1. 卷頭言
2. 研修センター機構図
3. 調査研究事業について
4. 新任所員あいさつ
5. 新任先生奮闘記
6. 実践の広場
7. 学校紹介
8. 後志教育講演会について



文部科学省キャリア教育実践プロジェクト
『岩内・寿都地方消防組合島牧支署訪問』(1年生)
島牧村立島牧中学校



運動会
『デートでGO』(3、4年生)
共和町立東陽小学校



「教育を考える」
後志教育研修センター組合
教育委員会教育長
小野寺 満
(俱知安町教育長)

北海道教育ビジョンの基本目標に「社会で生きる実践的な力の育成」、基本方向として「生きる知恵につながる確かな学力を育む、自立した生徒を支える教育の推進」とあります。実に的を射る目標であると考えます。

子どもたちの現状は、学ぶ意欲の低下や規範意識の低下・倫理観の希薄化、いじめ等の問題行動など多くの課題があり、変化の激しい時代の中での教育は、より複雑になり、授業展開における手法も重要な要素となります。

「与える教育よりも、つかませる教育。教え込む教師よりも、学習させる教師。」でいたいものです。

教育現場では、学習指導、生活(生徒)指導において、多くの問題を抱え、経験の少ない教師や初任者は、その中で悪戦苦闘し、時には、孤立しかねない現実があります。

次々と対応に追われる日々にこそ、先輩教師たちが、経験豊かな教師たちが、耳を傾け、導く時なのではないだろうか。

眞の教育とは、実は、教育現場の中心である教師たちの人格的ふれあいにあるような気がしてならないのは、私だけであろうか。

教師がチームとして信頼しあい、地域住民や保護者が、子どもたちの教育を共有し、安定した教育活動が出来るような基盤を構築する必要があると考えます。

「教育」は、いかなる時も、最高、最大、最深でなくてはならない。

後志教育研修センター組合 機構図

平成19年6月29日現在



研修センター所員				
小樽市立塩谷小学校長	菊池 敏明	岩内町立岩内第二中学校教諭	竹内 一実	
小樽市立望洋台中学校長	渡辺 常彦	岩内町立岩内中央小学校教諭	古館 昭仁	
俱知安町立西小学校教諭	明村 秀之	寿都町立寿都小学校教諭	宮村 直人	
俱知安町立俱知安中学校教諭	佐々木 淳	余市町立沢町小学校教諭	西谷 旬子	
俱知安町立俱知安小学校教諭	植松 真将	余市町立黒川小学校教諭	金井 建憲	
余市町立大川小学校教諭	植木 義明	古平町教育委員会社会教育主事	小原 和之	
仁木町立仁木中学校教諭	駒場 秀剛	岩内町教育委員会社会教育主事	濱上 俊治	
喜茂別町立喜茂別中学校教諭	芳川 卓巳	留寿都村教育委員会社会教育主事	池田 雅博	
俱知安町立東陵中学校教諭	渋谷 哲	寿都町教育委員会社会教育主事	渡部 恒久	

規則

親しまれる研修センターを目指して



後志教育研修センター
所長 赤塚 洋昭

新しい年度を迎えるにあたり、教職員の皆様、社会教育指導者の皆様には、新たな思いをもつてお仕事に取り組んでおられることと拝察いたします。後志教育研修センターにおける昨年度の事業は、北海道教育庁後志教育局はじめ、各市町村教育委員会、各教育関係機関・団体等のご支援・ご協力により、滞りなく終了することができました。厚くお礼申し上げます。とりわけ、各学校には、研修講座事業において、受講者はもとより、講師の派遣や授業会場校としてご協力を賜り、改めて感謝申し上げます。

さて、ご承知のように、当研修センターは、後志管内二〇市町村が管内の教職員、社会教育指導者等の資質向上に役立つ研修事業と管内教育の充実・振兴に必要な調査研究事業を共同で実施することを目的として設置されたものです。この目的の達成を目指し、今後も、快適な研修の場と教育情報の提供に努めるとともに、「親しまれる研修センター」を標榜し、より一層、研修講座や調査研究事業の改善・充実を図り、日常の教育実践に役立つよう鋭意努力して参りたいと考えております。

しかし、近年の各市町村の財政難による研修センター予算の削減は、研修センターの運営上、大変厳しいものがあります。校長の皆様はじめ受講者の皆様、講師の方々には、何かとご不便、ご無理をおかけいたしますが、事情をご理解され、今後とも研修センターの運営にご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、当研修センターは、調査研究事業として、所員による「学校教育」「社会教育」に関する研究を進めております。研究内容については、所報等でも紹介いたしますが、研究委員会の検証授業の際には、皆様にご参加をいただき、広く研究を交流する場を設けますので、参加をお待ちしております。

調査研究事業について

学習指導に関する研究委員会

「確かな学力」の向上のためには、個に応じた指導をより一層工夫したりしながら基礎・基本の確実な定着を図り、指導と一体化した評価を行っていくことはもちろん、あわせて発展的な学習の場を設けて、一人一人の個性等に応じて子どもの力をより伸ばすことにも重要である。そこで、「確かな学力」の向上に向けて、創意・工夫を生かした取組をどう進めるか、よりよい評価をどう進めるかなどについて、実践的な研究を推進する。

研究主題

「自ら学ぶ力をはぐくむ学習指導の工夫」

三ヵ年計画一年次目

委員長	明村秀之	教諭（俱知安西小学校）
副委員長	佐々木淳	教諭（俱知安中学校）
書記	植松真将	教諭（俱知安小学校）

委員長	濱上俊治	社会教育主事
副委員長	小原和之	社会教育主事 (古平町教委)
書記	渡部恒久	社会教育主事 (寿都町教委)
委員	池田雅博	社会教育主事 (留寿都村教委)

社会教育に関する研究委員会

地域住民の生涯学習支援や生涯学習を通じた地域づくりなどを推進するため、地域住民の声に耳を傾け、社会の要請と地域住民の多様な需要の双方に対応した学習機会の提供や施設整備などを地域住民と協力して主体的に実施することがより必要になつてきている。

そこで、本委員会では、共通様式の評価表を用い、全体の実態とその結果を分析し実際に評価を行うことで、真に必要性があり、より効率的効果的な社会教育事業実施に向けての一助とする目的とする。

研究主題

「社会教育事業の評価の在り方」

二ヵ年計画二年次目

委員長	明村秀之	教諭（俱知安西小学校）
副委員長	佐々木淳	教諭（俱知安中学校）
書記	植松真将	教諭（俱知安小学校）
委員	植木義明	教諭（余市大川小学校）
	駒場秀剛	教諭（仁木中学校）
	杉山義明	教諭（喜茂別中学校）
	渋谷哲	教諭（俱知安東陵中学校）
	竹内光宏	教諭（仁木中学校）
	古館一実	教諭（岩内第二中学校）
	宮村昭仁	教諭（岩内中央小学校）
	西谷直人	教諭（寿都小学校）
	金井旬子	教諭（余市沢町小学校）
	新居建憲	教諭（余市黒川小学校）

協力員 柴田 真琴 主査

（後志教育局 社会教育指導班）

研究の経過や成果については、所報・ホームページ等でお知らせいたします。

今年度は新たに九名の所員の方々を迎えるました。所員の方々には、主に当センター調査研究事業にてご尽力いただきます。それでは、九名の所員の方々を紹介いたします。

所員になつて



仁木町立仁木中学校

教諭 駒場 秀剛

この度、後志教育研修センターの所員として、研修の機会を与えていただきことになりました。今日の教育を取り巻く環境は大変厳しい物になっています。我々教員の果たす役割もこれまで以上に重要になってきています。このような状況で、果たして自分に何ができるのかとても心許ない所ではあります。自分にできることを一つ一つ精一杯取り組んでいきたいと思います。先輩所員の先生方からのご指導をもとに頑張っていきたいと考えています。どうぞ宜しくお願い致します。

それ故に、職責の重さを痛感しています。これら、皆様方のご指導のもと、後志教育の発展のために貢献できるよう努力していきたいと思つております。どうぞよろしくお願ひいたします。

新所員になつて



岩内町立岩内中央小学校

教諭 古館 昭仁

この度、後志教育研修センター所員として、学習指導員会の一員に加えていただきました。

子どもが本来持つている「学ぶ意欲」をいかに高め、持続させるのか?生活経験や既習事項、また、友だちの考え方を生かして、自らの考え方を高め、広げていくには、どうしたらよいのか?すべては教師の力量にかかるつていると感じています。同委員会の先生方とともに、「学ぶ意欲にあふれ仲間とともにいきいきと遊び続ける子」の育成を目指し、具体的な実践を伴つた研究を深めていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

新所員になつて



俱知安町立東陵中学校

教諭 渋谷 哲

この度、後志教育センターの所員として学習指導員会の一員となり、学習する機会を与えていただきました。今日の教育を取り巻く環境は大変厳しい物になっています。我々教員の果たす役割もこれまで以上に重要になってきています。このような状況で、果たして自分に何ができるのかとても心許ない所ではありますが、自分にできることを一つ一つ精一杯取り組んでいきたいと思います。先輩所員の先生方からのご指導をもとに頑張っていきたいと考えています。どうぞ宜しくお願い致します。

新所員になつて



余市町立沢町小学校

教諭 西谷 旬子

この度、後志教育研修センターの所員として学習指導研究委員会の一員に加えて頂きました。

「子ども達がいきいきと学習できる」そんな一時間を目指に毎日子ども達と過ごしています。同時に、いつも一人ひとりの子どもがいきいきと学習できることの難しさを感じています。同委員会の先生方と研究を深め、皆様のご指導のもと自ら考える力を育み学習する子どもの姿を目指して努力していきたいと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。

新所員になつて



余市町立黒川小学校

教諭 金井 建憲

この度、後志教育研修センターの所員として、研修の機会を与えていただきました。子どもたちを取り巻く環境が日々変化する中、教育現場における様々な課題や多様なニーズに応えていくための教師の資質が今まで以上に求められています。『子どもたちのためになる教師の力』を様々な視点から考えていかなくてはなりません。「学ぶ意欲」を大切にし、生きる力の育成と確かな学力の定着を目指した学習展開の工夫を学習指導委員会の先輩の諸先生と共に考え、実践の中でその答えを一つでも見出していけるよう努力して参ります。どうぞよろしくお願ひいたします。

新所員になつて



岩内町立岩内第二中学校

教諭 竹内一実

今年度より、後志教育研修センターの所員として学習指導研究委員会の一員にさせていただきました。

既に研究主題設定等の会議に出席しましたが、「どうすれば子ども達にとってより良い学習活動になるか」ということを諸先輩方の導きにより勉強させていただいております。

今後も研究・検証を重ね、子ども達が楽しく主体的に学ぶ学習活動が展開されるために全力を尽くして本研究活動に取り組む所存でございます。どうぞよろしくお願ひします。

新所員になつて



寿都町立寿都小学校
教諭 宮村直人

今年度より、後志教育研修センターの所員として、研修を積む機会を与えていたただくことになりました。我々教師の本分である「授業力」を高め、さらには「教育力」を磨き上げていくために、様々な視点からじっくりと考えていくことができればと思います。

所員として力不足の面があるかもしれません、研究委員会の先生方と共に学ばせていただき、日々の実践に生かしていけるよう努力してまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

新所員になつて



喜茂別町立喜茂別中学校
教諭 杉山光宏

この度、後志教育研修センターの所員として、研修の機会を与えていたただくことになり感謝しています。所員となつて三ヶ月が過ぎましたが、他の所員の方々の熱意に圧倒されるばかりです。自分も一員として、『後志の子どもたちのため』、現場の視点と実践を大切にしながら、早く役に立てる存在になりたいと思います。

学習指導委員会の先生方と共に、自ら考える力を育む学習指導の工夫を考え、実践していけるよう努めていますので、どうぞよろしくお願ひします。

新所員になつて



留寿都村教育委員会
社会教育主事
池田雅博

学校現場から新任の社会教育主事として赴任し、地域の生涯学習推進に努めています。

この度、後志教育研修センター所員として社会教育の研究に参加することになりました。

教育基本法の改正で、生涯教育の理念が明記されました。今後、学校教育と社会教育との連携は一層重要になります。社会教育の研究テーマは、「社会教育事業の評価の在り方」です。管内各市町村においてその事業が本当に必要なのか判断する資料として使えるよう研究を進めています。これからも、役に立つ情報を提供できるよう尽力いたしますので、どうぞよろしくお願ひします。

「二十一人の子ども達」



小樽市立塩谷小学校
教諭 柴田統子

任期満了等により、九名の所員の方々が、平成一九年三月末日を持って、ご退任されました。長年にわたり、後志教育研修センターの充実・発展にご尽力賜りましたことに対し、深く感謝申し上げます。

子ども達のいたずらに驚かされながらも、時折見せる優しさや純粋さに思わず笑みもこぼれます。子ども達の産みの親にはなれませんが、せめて一緒に過ごす間だけは育ての親になれたらしいなど願っています。

初めての学級担任で失敗も多くありますが、後々振り返ったときに後悔しないように、精一杯努力していきたいです。

「日々勉強」



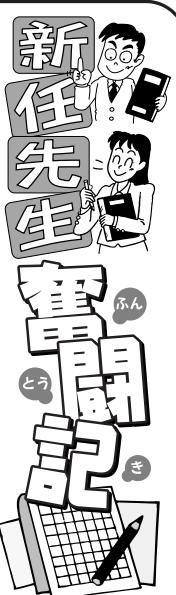
余市町立東中学校
教諭 常田玲奈

この四月から余市町立東中学校に赴任して、早三ヶ月が経ちました。

*（）は昨年度の所属先

所員 山本俊次（岩内第一中学校）
所員 宇野嘉純（余市黒川小学校）
所員 川田賢一（寿都中学校）
所員 中芳川和卓巳（俱知安東小学校）
所員 芳邦聖明（余市旭中学校）
所員 五十嵐春仁（二セコ中学校）
所員 田佐市芳克（余市西中学校）
所員 佐川邦聖（俱知安北陽小学校）
所員 佐川邦春（俱知安町教育委員会）

今年度、管内には小学校十一名、中学校十七名、合計二十八名の方々が新任として先生になられました。所報「後志教育」では、No.一四一、No.一四二の二号で新任先生を紹介します。



中学校という初めての環境で、全て初めての仕事でとまどう日々ですが、その中でも生徒の元気いつぱいの挨拶を聞くと、「頑張らなければ」と思わされます。生徒によつて励まされ、教えられ、本当に教師という仕事は生徒と共に歩んでいくものなのだと感じています。

日々学んだものを生かし、少しでも生徒に返せるようにこれからも努力していきたいと思います。

「できることを精一杯」



小樽市立入舟小学校
教諭 政氏綾佳

『ひまわり学級』三人の担任となつて、三ヶ月。学年も個性も違う三人を目の前に、体当たりの日々を過ごしています。友だちのことを考えたり、言葉で気持ちを伝えることが苦手な子どもたちに、学習だけではなく、遊びの中からも友だちのことを考えること、ルールを守ることを伝えていきます。変化はすぐには見せてくれません。それでも、毎日見せてくれる笑顔と時々聞こえるステキな言葉のために、これからも体当たりで向き合つていきたいと思います。

い私は、その二日後から激痛と闘うハメになりました。けれども、痛みと引き替えに、ちょっとだけ生徒の気持ちに近づくことができたような気がしました。このようなエピソードができるだけ多く重ねて、日々過ごしていければと考えています。

「スタート」



積丹町立日司小学校
教諭 松永紗安香

赴任が決まつたとき、年間行事予定を見て、「何行事の多い学校なんだろ。」と思いました。それに加え、初めての複式学級と初めての新入生担任。実際、四月からの三ヶ月はめまぐるしく過ぎました。しかし、不思議なもので時間に追われている感覚はありませんなく、心穏やかな日々です。それは、全校児童九人と職員全員が常に協力し、支え合っているからだと思います。

授業の面では、まだまだ力不足を感じます。低学年は学習の基礎や習慣をしつかり身に付けさせる学年です。一、二年生の二人と共に私も大きく成長できる一年にしたいです。

「一時間一時間が勝負」



小樽市立稲穂小学校
教諭 中村かずえ

「ことばの教室?」「何をするの?」

それが私のスタートでした。基本的には週に一回・一時間程度の限られた時間ですが、だからこそ、子どもとどう向き合うべきか、子どもの可能性をどう伸ばしていくかなど、考えさせられることがたくさんあります。

また、ことばの教室でしか見えない子どもの様子を見ることができたり、子ども自身が新しい自分を見発見できたりもします。私は、この場所を求めて来る子どもたちのために、一人一人のニーズに合わせて、よりよい成長を支援できるよう努めていきたいと思います。

「本気であること」



神恵内村立神恵内中学校
教諭 青山剛史



小樽市立望洋台中学校
教諭 種崎利勝

先日、生徒に混じつて一緒に部活動で体を動かしてみました。真剣に十五分間、全力で走り、ボールを追いかけてみました。途中足がもつれ転びそうになる場面も…。

息が上がり、その後一時間は体育館の床にへばりついていました。新採用とはいえ、さほど若くはない

ように、わかりやすい授業を開いていきたいです。生徒に教えるだけではなく、生徒からも教わる姿勢を忘れずに、生徒と共に成長していきたいと思います。

とを意識して、「本気であること」を大切に、努力を重ねていきたいと思います。

「学ぶ楽しさ」



小樽市立花園小学校
教諭 斎藤 未菜子

「先生、勉強って楽しいね。ぼく、さけのことがもつと知りたくなったよ。」わたしが教員になつて、一番嬉しかった言葉です。

夢だった「先生」としての仕事がスタートし、早三ヶ月。まだまだ未熟ではありますが、心強い先生方と明るい子どもたちに支えられ、毎日楽しい学校生活を送っています。

冒頭の言葉は、国語の説明文「さけが大きくなるまで」の学習の最後に出た言葉です。今、子どもと一緒にさけについての調べ学習をしています。子どもに学ぶ楽しさを感じさせるためには、まず教師自身が楽しさを感じられなくてはならないと思います。これからは子どもと一緒に、また子どもから学びながら、「学ぶ楽しさ」を感じていきたいです。

「日々勉強」



喜茂別町立喜茂別中学校
教諭 小向宗幸

喜茂別中学校に赴任して、早いものでもうすぐ三ヶ月が経とうとしています。これまで高校での経験しかなかつたため、赴任当初は、発問の仕方や、生徒への指示の仕方などで、高校との違いから戸惑うこともありました。特に発問の仕方は、高校生と比べ、より発達段階に応じた発問の仕方を考えて行かなければならぬと実感しました。

学校生活は、生徒と教師が共に学ぶ場だと思います。生徒の成長をサポートしながら、私自身、教師として、そして人間として成長していきたいと思います。

「ただいまと初めまして」



寿都町立寿都中学校
教諭 秋南一樹

初夏の暑さに窓を開けると、寿都湾から届く懐かしい潮の匂い。初任の地となつた寿都中学校は、私の母校です。

廊下には、修学旅行の集合写真。十年前の自分と毎日顔を合わせながら、早三ヶ月が経ちました。九十三名の生徒の中には、幼少の頃をよく知っている生徒もあり、彼らの笑顔を見るたびに、この町の教育に携わることができることの喜びと、その責任の重さを実感しながら、日々子ども達と向き合っています。

ここは故郷でもあり、そして教員生活スタートの地。沢山のことを学び、感じ、子ども達に還元することができればと思っています。

「二ヶ月経つて」



仁木町立仁木中学校
教諭 青木里紗

初任者として仁木中学校に赴任してから気が付くと三ヶ月たちました。この三ヶ月、修学旅行の引率や体育大会、日々の授業を通して少しづつではあります、生徒との距離が埋まってきたように思います。三年生はあと八ヶ月間、二年生は一年八ヶ月間、一年生は二年八ヶ月の限られた時間いっぱいに、最高の中学校生活を送るために自分には何ができるのかを自問自答しています。また、生徒たちや、先輩

の先生方から多くのことを学び、早く一人前の教師となつて、より多くのことを生徒に還元できるよう日々努力を重ねていきたいです。

「一日の楽しみ」

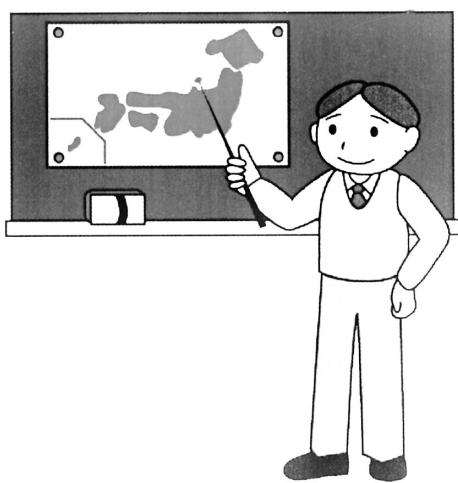


小樽市立北山中学校
教諭 鈴木晴美

朝、玄関で「おはよう?」と生徒と挨拶を交わすことが一日のエネルギー源です。

特別支援学級の担任となり、登下校、全教科の授業、休み時間、給食等、学校生活全てを一緒に過ごす。生徒を理解することや何をどう教えるか模索し、挑戦している毎日です。どんなときでも、生徒が帰るときには、生徒と共に有した一日の出来事や学習、感想を一緒に振り返り、笑顔で「また、明日ね。」と手を振り見送ることが一日の楽しみです。

いつも支えてくださっている方々への感謝を忘れず、これからも精進していきたいです。



実践の広場



黒松内町立黒松内小学校

教諭芷澤滋

黒松内小学校に赴任して三年目になります。黒松内町は歌才ブナ林や黒松内岳、朱太川に開まれた自然豊かな土地です。教材として、こんなに魅力あふれる場所はないでしょう。地域素材を生かした総合的な学習の時間は「ブナ里学習」と称した活動をしています。川やブナ林に出かけ活動することが多いのです。

この自然を
何とか上手
く活用しな
ければと、
とにかく外
に出かけま
した。今思
うと、本当に場当たり的というか、無計画とい
うか・・・。山菜を食べてみる、ブナ林を歩
いてみる、葉っぱを調べてみると活動は多かつ
たのですが、「実りは?」というと自然体験のみ
となつていきました。見通しのなさを痛感した



動できなかつたように思ひます。こちらの「ふうしたい」を押しつけた、子どもにとつてはどこか堅苦しい活動時間ではなかつたかと、また反省の一年でした。



と言われるくらいの活動をすることが今年の目標です。そのためには、これからもまずは自分が地域を知り、楽しみ、子ども達の期待感・ワクワク感を刺激し、「やりたい」を「学び」につなげる力を持ちたいものだと考えています。





一年となりました。

そんな一年目を経て、見通しを持つこと」を自分なりのテーマに据え、二年目を迎えました。「学ばせよう」という

しを持つこと」を自分なりのテーマに据え、二年目を迎えました。「学ばせよう」という思いだけが先走り、「こんな事に気付いてほしい」「こんな方向に伸びていってほしい」といっていなかつたのに。そうしていくと、自分なりの楽しいポイントやこだわりが出てきました。

ブナ林にも入りました。車窓から眺める木々を見て「ああ、ブナがきれいだ」と感じる季節もあるのです。それまで全く木は木としか見ていなかつたのに。そうしていくと、自分なりの楽しいポイントやこだわりが出てきました。

年も住んでみると、今まで題材として捉えていた「自然」を、自分の楽しみの場と感じることが多くなりました。地域の方々に教えていただき、近くの川に釣りに行つたこともあります。ブナ林にも入りました。車窓から眺める木々を見て、「ああ、ブナがきれいだ」と感じる季節もあるのです。それまで全く木は木としか見ていなかつたのに。そうしていくと、自分なりの楽しいポイントやこだわりが出てきました。

実践の広場

「基礎・基本の確実な定着を目指して ～校内研修を通して～」



古平町立古平中学校
教諭 木戸潤一

仮説② 個に応じた指導・ 学習形態の工夫

児童・生徒の数学や理科離れの傾向、それに伴う学力の低下が話題になつて久しく経ちます。また、その時々によつて、「生きる力」「確かな学力」等の流行り言葉が教育現場に行き交い、その度ごとに今日的課題が指摘されます。

しかしながら、いつの時代においても、その根底にあるのは「基礎・基本」であるような気がしてなりません。本校でも、学校経営の重点をふまえ、昨年度より三年次計画で「基礎・基本を確実に身につける生徒の育成」という研究主題のもと、研究を推進しています。以下にその概要について簡単に紹介したいと思います。

仮説① 基礎・基本の明確化

「こんなこと勉強して何の役に立つんだろ
う」「社会に出て使うことがあるのか」・・生徒
がよく抱く疑問である。そういう疑問が解
消されなければ、生徒は学習することに意義を
見出せません。学習する単元あるいは一単位
時間における基礎・基本を明確にすることで、

一部の教科でTTTを導入したり、選択教科においては習熟度別学習形態を取り入れるなど、生徒の実態に応じたきめ細かい指導を実践しています。また、一斉授業の中でもグループ学習や体験的・問題解決的な学習を場面によって取り入れたり、反復練習などの補充的な学習も取り入れ、基礎・基本の定着を図るような指導をしています。

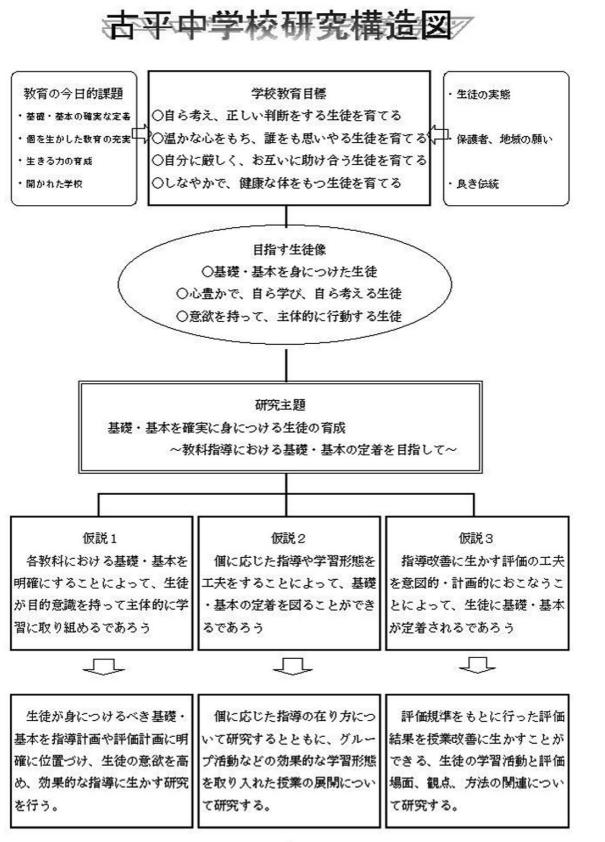
仮説③ 指導と評価 の一體化

身につけさせたい力＝身
につけた力になるとは限り
ません。その際、その要因
を考察し、次の授業改善
に活かしていくことが求め
られます。評価場面・観点・

生徒は目的意識を持ち、主体的に学習に取り組むことができ、強いては基礎・基本の定着につながっていくと考えます。

方法を計画的に位置づけたり、場合によつては自己評価・他己評価カードを利用するなどして、指導とその結果がどうなつたかを分析するこどが指導法の工夫改善につながり、強いては基礎・基本の定着につながっていくと考えます。

以上のような仮説を立て、実践を通して検証を進めているところです。まだまだ研究の半ばで目立つた成果はありませんが、これから的是激動の社会を生き抜いていくような確かな力を生徒に身につけさせていきたいと思います。



学
校
紹
介

〈岩内町立岩内中央小学校〉

『主体的に判断し、生き生きと活動する子どもの育成を目指して』

岩内町立岩内中央小学校

教頭下口學

岩内町立岩内中央小学校は、その名の通り岩内町の中央に位置している学校である。本校は、『高台小学校』『野島小学校』『西小学校』の三校を統合し、『岩内中央小学校』『岩内西小学校』の二校として昭和五十二年に新設され、今年でちょうど三十周年目を迎える。児童数は現在三百五十二名で三十三名の職員がそれぞれの立場から子ども達とのかかわりをもち、学校教育目標実現のために努力している。



確かに力の育成

本校の研究主題は「確かな力をつけた子どもたちの育成」である。この「確かな力」といふ言葉の中には、子どもの基礎学力の育成と教師自身の授業力の向上という意味も含まれ

異学年とのかかわり

本校では、学級内での子ども達同士の交流はもちろんのこと、異学年間のかかわりを重視した取組を行つてゐる。

ている。一人ひとりの基礎学力の定着をはかる授業作りをめざして、「ことば」「数」「特学」の三ブロックに分かれて研修活動を行い、一期に三回、二期に三回の合計六回の研究授業を行い、お互いに検証し合うという実践的な研修を行いながら、教師一人ひとりの授業力の向上を図っている。また、算数を中心としたTTの授業や、特別に支援を必要とする子に対する支援体制の整備を行いながら、個の能力に応じた授業の展開の工夫を図っている。

生き生きと活動する場の設定

本校では、年間七回実施する五年生以上全員を対象としたクラブ活動の他、「野球少年団」「陸上少年団」「合唱クラブ」「クロスカントリースポーツ少年団」(冬季のみ)の四つの特殊クラブを設置し、PTAから活動資金の寄付をいただきながら常時活動している。

その結果、野球少年団では各種大会に出場し好結果を得ており、陸上少年団では十九年度、全道大会に十八名が出席し、その中で二名が全国大会への出場権を得ている。また、合唱クラブは毎年NHK音楽コンクールをはじめ様々なコンクールに出場したり、病院や老人施設に行つてコンサートを行うなど、ボランティア活動も行つてゐる。

て活動する集会活動など、学年の枠を超えた活動の場を多く設定することにより子ども達同士の関わり合いを深め、思いやりのある子の育成を目指している。



本校には、PTAを通して保護者や地域に「ティーチャーズバンク」とゲストティーチャー

真狩村は羊蹄山の南麓に位置し、農業を基幹産業として発展してきた準農村である。主要な作物は、じゃがいも、大根、人参などで、中でも食用ユリ根、花ユリ球根は全国一の出荷量を誇っている。歌手細川たかしの出身地としても知られ広大な大地と自然、清流の里である。

本校は昭和四十九年四月統合真狩中学校として開校、その六月に校舎が完成し、現在に至っている。現在の生徒数は六十六名。統合時に比べ1/3となつていて、生徒が多く、元気な挨拶が飛び交う学校である。学習面でも意欲的に授業に取り組み、また、縦割り班活動による異学年交流を中心とした行事や部活動なども盛んに行われている。

地域や保護者の学校に対する期待や関心も大きく、積極的に学校にかかわろうとする姿勢が見受けられる。そのような中、本校では、地域の人材を活かした様々な教育活動が行われ、「多くのかかわりの中から心を育てる」という教育実践が行われている。

本校では「真狩をみつめ、自分の生き方を考える」という全体テーマのもと、各学年とも地域に根ざした「総合的な学習の時間」が構築されているが、その中においても、地域のたくさ

地域に根ざした総合的な学習の時間

この事業等を利用しながら、例えばレストランのシェフ、看護師など年間を通してたくさんの方々を通じてたくさんの「ゲストティーチャー」においていた



全校朝読書と読書支援活動

本校は平成十九年度から確かな学力と豊かな心を育てる目的に、全校生徒による朝読書に取り組んでいる。この時間は担任はもとより副担任も教室に入り、学校中シンシンとした中でともに読書を行い、落ち着いた雰囲気を醸し出すにも一役かっている。この取り組みを支援するため、



学校紹介

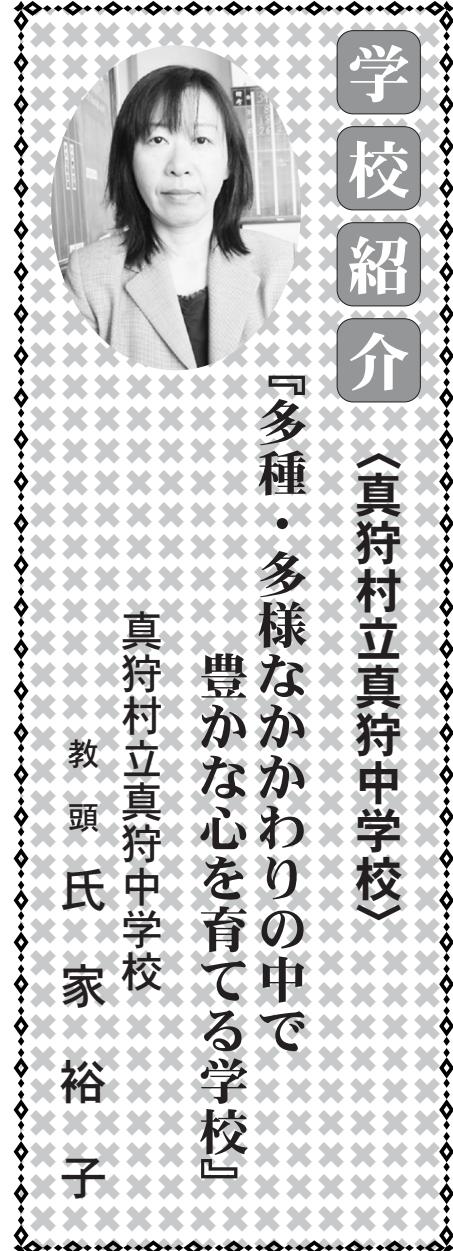
〈真狩村立真狩中学校〉



『多種・多様なかかわりの中で豊かな心を育てる学校』

真狩村立真狩中学校

教頭氏家裕子



んだの方々に来ていただき、こちらから出向いて取材や体験活動をさせていただいている。また、修学旅行は、地域の理解のもと補助をいただき、東京方面に総合的な学習の取材に行っているが、一方的に協力していただくだけではなく、修学旅行や総合的な学習のまとめとして、毎年秋に地域の方々やお世話をなった方々をお招きし、プレゼンテーション大会を行って、地域への情報の発信と将来に向けての提案を行っている。

「学校ではこういう人材がほしい」とよびかけ、登録していただき協力を仰ぐという

「ティーチャーズバンク」という事業がある。

この事業等を利用しながら、例え

ば、レストランのシェフ、看護師など年間を通してたくさんの方々を通じてたくさんの「ゲストティーチャー」においていた

だき、様々な機会に授業や講演をしていただいている。また、合唱指導や足の健康の講義など、保護者の方に授業をしていただくことも何度かあった。子ども達にとって様々な生き方や考え方を学ぶ機会となつており、その意義は大きい。

後志教育講演会



撮影：疋田千里

期日 平成一九年八月九日（木）
時間 一三時三〇分～一五時三〇分

（受付は一時三〇分より）

会場 二セツ東山プリンスホテル
講師 水谷 修氏
演題 「今、子どもたちとは…」
「私たちができる」と
しなければならないこと

すでに管内各小中高等学校並びに教育関係機関に
お知らせいたしましたが、今年度の後志教育講演会
は「夜回り先生」で有名な水谷修氏（水谷青少年問題
研究所）をお招きして、講演会を開催いたします。
著名な方であり、参加数が多いことが予想され、座
席枠の関係から事前に参加希望を募りましたが、六
月末日現在で六〇〇名以上の申込がございました。
申し込みいただいた方々については、全て来場で
きますので、勝手でございますが紙面にてお知らせ
いたします。

なお、会場の駐車場には限りがございますので、各
校お車については乗り合わせでお願いいたします。
また、当初の受付時間より一五分早く受付いたしま
す。

皆様のご来場をお待ちしております。

今年度は、五月一五・一六日の「校内研修」を皮切
りに研修講座がスタートしました。すでに六月末日
現在で九つの講座が終了しました。いくつかの講座
の様子をご紹介いたします。

講座の風景

「社会科」研修講座 六月一八・一九日

講師 田村 仁先生（二七〇中学校）
三上 智之先生（共和北辰小学校）
西山 誠一先生（小樽稻穂小学校）



講師を含めて一四名の参加があ
りました。講師の西山先生には授
業も提供していただき、実践的な
内容の講座となりました。

〔受講者より〕一日目は色々な資
料を提示していただき、楽しく受
講できました。二日めについては
授業が日程に入っているのはとてもよいです。理論
だけの研修ではなく、より実践的な研修であつたと
思います。

「音楽科」研修講座 六月二八・二九日

講師 横澤 一先生（余市大川小学校）
上野由美子先生（余市沢町小学校）
鹿毛奈津紀先生（宗極中学校）



講師を含めて三二名の参加があ
りました。講師の上野先生には授
業も提供していただき、実践的な
内容の講座となりました。また、
河合楽器製作所より特別講師をお
招きしてスコアメーカーについて
の実技講習も行いました。

〔受講者より〕鑑賞の学習も音楽の大切な一部なのだ
と改めて感じました。これから子ども達のためにも
授業作りをがんばっていきたいと思います。合唱と
ても楽しかったです。発声のしかたも勉強になりました。
最後の大合唱も心があたたかくなり来週から
がんばろうと思います。ありがとうございました。

「生徒指導」研修講座

六月一九・二〇日

講師 庄司 真人先生（余市西中学校）
栗林 靖晴先生（古平中学校）

柿原 徹先生（寿都小学校）
（受講者より）石橋病院の白坂先

生の講義が、現場の最前線で働か
れている先生らしい大変興味深い
内容で参考になりました。

<発行所>

後志教育研修センター

〒 044-0013

虻田郡俱知安町南3東4

Tel 0136-22-1337

FAX 0136-22-2681

E-mail skc@cocoa.ocn.ne.jp
http://www.shiribeshi-etc.jp/

<発行者> 赤塚洋昭

<印刷所>

有限会社 いとう文化堂印刷

長期休業中、長期休業明けにも一
七の講座があります。講師を務めて
いただく先生方、受講される先生方
よろしくお願ひいたします。